

仙人修行



行者ニンニク編



イノシシに荒らされたこの場所を整地します！

朝日町には、移住者があこがれる仙人がいる。今年はその仙人が活動している「夢創塾」が25周年を迎える。記念すべきこのタイミングに私たちも少しばかり「修行」しようと思う。なるべくお金をかけないで作る、その名も『貧乏のファーム』果たして農業超初心者かどこまでできるのか。



行程①

飼いやぎ、イノシシ対策として罠をするため杭の製作。打ち込みやすいように先端を削る。



行程②

漁師さんからいただいた不用の網をロープにするためブイを外す。



行程③

罠うポイントに杭を打ちこみ、杭上部を竹で連結しロープで固定。



行程④

固定した枠に獣の侵入を防ぐため網を張りロープで固定。



行程⑤

雑草を抜く。



行程⑥

一年目の赤ちゃん行者ニンニク用のうねと移植スペースを作る。



行程⑦

赤ちゃん苗を畝へ移植



行程⑧

直射日光を避けるため日よけを掛ける

貧乏のファーム 仙人の名言

金を使わず 頭を使え！

仙人までの道のりは果てしなく遠い...

発行：朝日町地域おこし協力隊
お問合せ：0765-83-1100

◆ユリ科ネギ属 別名：キトビロ、ヤマビル、ヤマニンニクなど

ギョウジャニンニクはタマネギやニンニク、ニラなどと同じユリ科ネギ属の多年草です。日本には近畿以北から北海道にかけて分布していますが、東北より南では高山でしか見られません。

初夏に葱坊主と同じような花を咲かせ、それからできる種と株から出てくる新芽が増えていきます。

ニンニクと同じような香りがあり、滋養強壮に強い効果があるといわれ北海道では古くから山菜として食べられてきました。

◆収穫できるまで5年以上かかる

ギョウジャニンニクは成長が非常に遅く、種を蒔いてから2年目の春にようやく芽を地表に出します。そのひよろひよろの茎に葉は1枚だけで、3年目から4年目になって葉が2枚以上となり、5年目あたりでようやく茎が伸びて花が咲き種がつき始めます。それくらいになってようやく株の太さが鉛筆の太さくらいとなって収穫できようになります。

◆天然ものは激減しています

ギョウジャニンニクはキトビロやアイヌネギなどとも呼ばれ北海道の特産山菜として有名ですが、右記の通り成長には長い年月がかかるにもかかわらず、根こそぎ乱獲する人も増え、現在ではその数が激減しているようです。

挑戦・行者ニンニク栽培

長崎喜一



行者ニンニクのお花畑にて

山菜の王者「行者ニンニク」の味に惹かれ十数年前、自生の株を夢創塾の一角に植え、試行錯誤しながら株分け種子からの養成を行い増殖、これを山裾や畑に移植し、珍しい行者ニンニク畑として自慢、見せびらかしていた。

しかし、残念なことに近年球根ごとごとすり盗掘されたり、イノシシ被害に遭って畑は放棄状態。そんな折、横山、岡本両協力隊員がバードコール用の原木調達に訪れた際、ニンニク畑の惨状を知り、食べたい一心で畑の復活を提起。ド素人には栽培が難しく、しかも種子からの株養成を行うと4年以上の栽培管理期間を要し、管理に疑義があったものの両名の熱意に栽培指導を快諾。

畑作りの第1歩は、生き残り行者ニンニクが集中している場所、概ね50㎡の周りに杭を打ち込みネットで囲み草むしり後、放棄畑に残っている株、50株を土と共に掘り出して畑に移植。畑の中に既存の株と含めて150株余り、寂しい密度だが一応畑完成。

後日、密生した畑を目指し、他の畑に自生している実生の幼苗700株を採集して畑の隅に植え替える。日よけ管理ネットを張って暑さ対策。

4〜5年後には立派に成長し、食べきれずに売りに出せるかも？成功のすべてが今後の管理にあり、諦めずに挑戦し続けてほしいものだ。

行者ニンニクは血液をさらさらにし、健康増進に効果的で疲労回復によいとされており、その効果を協力隊員自身が体験して商品化普及に励み“地域興し”のきっかけとなることを期待しています。